

1. 調査報告概要表

作成日平成21年5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 3471504542
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	福山ケアセンターそよ風
所在地	広島県福山市松永町3丁目21-70 (電話) 084-930-4188
評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田4丁目46-9
訪問調査日	平成21年2月23日

【情報提供票より】(21年 1月 30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16 人 常勤 13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3 階建ての 3 階建ての 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 120,000円	有の場合償却の有無	有(1年)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
	または、1日あたり 1,400円			

(4) 利用者の概要(1月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	8 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名				
要支援1	0 名	要支援2	0 名		
年齢 平均	84 歳	最低	69 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小川胃腸科内科産婦人科医院・医療法人社団沼南病院・キタカ歯科医
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の中に立てられた3階建ての建物でグループホームはその3階にある。1～2階はデイサービス・ショートステイを行っておられる。2ユニットであるがそれぞれのユニットは入居者の希望だろうが違った雰囲気を持っている生活がなされている。職員は入居者の気持ちを良く理解しており、お互いの会話は自然である。職員は月3回のミーティング(職員の発案)で情報を共有できる体制をとっておられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	よりよい介護をするために家族や外部からの声を聞きそれを基にしたミーティングが行われている。そのための取り組みとして運営推進会議や外部評価を積極的に活用していく姿勢を持っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価と外部評価を玄関に置き来訪者(家族や地域の人など)に見せておられる。7委員会をもっておられ企業内の他のグループホームなどと意見交換などをしてレベルアップに努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議を2ヶ月に一度開催して地域の人々に事業所の状況を説明している。会議の内容や参加者を固定するのではなく、地域との結びつきをより大きくするために他の参加者も検討しておられる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームの状況を そよ風通信 で家族に知らせるようにしておられ、家族の訪問時には家族との会話をされている。運営推進会議に家族の参加があり、そこでの家族の意見が反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の喫茶店にお茶を飲みに行ったり、ホームに入る前に行っていたお店に行ったりして入居者と地域を結びつける取り組みをしておられる。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域における介護の理念を事業所として定めておりその下にグループホーム内のユニット桃の理念を作っている。		同じホーム内のユニット華も理念を作る準備をしておられる。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング(月3回実施)での唱和や理念に基づいた介護の相談をしておられる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会の会合が施設を利用して行われている。野菜作りや喫茶店への訪問など地域との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の内容は職員はよく理解しており、改善すべきときはミーティングで相談をしておられる。評価内容を家族や地域の人たちにみてもらえるように玄関に出している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の割合で開催されており、参加者は家族・自治会長・民生委員・包括介護支援センターの職員で、運営状況や催し物など、ホームだけでなく事業所としての活動も報告されている。		

福山ケアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	後期高齢者の医療制度の説明会が市の職員が来て事業所で行われた。キャラバンメイトの研修会が事業所で近く実施される。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	そよ風新聞を配っておられる。生活の中で何かあると電話連絡をしておられる。		外出されたときや行事で楽しんでおられる様子を写真に撮って小遣いの使用状況の報告などと一緒に送られると家族はとても安心される。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは、来られた時に話すようにしている。意見箱やアンケート調査での声をサービス向上委員会で話し合っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が早く慣れるように月3回のミーティングを行っている。職員の異動は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は内部研修や外部研修に参加しており、技能の向上に努めている。資格を取る研修には費用の負担がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中四国にあるそよ風の組織での交流が毎月あり研修が行われている。他のグループホームへの訪問を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入居前に通っていた店に行ってみるなど生活していた場所への訪問を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	入居者の希望により、近くの喫茶店へ2～3人で出かけている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入居者の希望をスタッフ全員が共有するための話し合いをして、それにかなうように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	月3回のミーティングを行っており、そこで介護計画を話し合っている。		月3回のミーティングは職員からの要望により実施されている。
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	6ヶ月に一度は見直しを行っており、ミーティングで話し合っている。入居者の状態の変化はすぐに話し合ってから対応しておられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービス・ショートステイと連携した活動(例: グループホームからデイへ出向いたり、デイからの訪問)がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医で継続を希望する人はそのままかかりつけ医としている。協力医は毎週一度の訪問がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対する指針を作り家族に相談をしている。今までは家族の希望によりぎりぎりまで世話をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに寄り添いながらその人の気持ちを大切に介護をしている。個人情報事務室にきちんと整理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ち(願い)を聞き壁に張り出してその願いをかなえる取り組みがある。		

福山ケアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けのお願いをしておられた。時には外食をしたり、アルコールの好きな人には楽しむと陸がある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日沸かして男女交替で入れるようにしておられるので希望すれば毎日入られる。入らない人には足浴をしておられる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	近くの喫茶店に出かけたり、昔よく行っていたお店に出かけたりして楽しんでおられる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物だけでなく喫茶店に出かけたり、昔行っていたお店に出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出希望者はいつでも出かけるように取り組んでいる。3階であるが入居者はいつでも1階に降りることができる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で年2回避難訓練を行っている。次回は車イスの人の避難訓練を検討しておられる。		

福山ケアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食後には一人ひとりの摂取量をチェックして記録している。不足の人には補給を試みている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはソファ・椅子が置かれてあり、壁には入居者の作品や行事のときの写真が飾られている。カラオケやオルガンなど室内で楽しむものが置かれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者必要と思われる家財や写真など持ち込まれている。		